

# 「生物多様性の保全や利活用に取り組むトップランナー大阪」をめざして

○近藤美麻（環境研究部）

## 1. 背景と目的

生物多様性からの恵みは、私たちの暮らしを支えている。その恵みを将来にわたり持続的に享受できるよう、世界的な取組が進められており、大阪府でも、2022年3月に「大阪府生物多様性地域戦略」が策定され、様々なステークホルダーにおける生物多様性の保全と持続可能な活用に向けた取組の推進が求められている。

環農水研生物多様性センターでは、生物多様性の保全や利活用に取り組むトップランナー大阪をめざし、調査研究から得られたデータを礎に、様々なステークホルダーに対し、情報発信や、取組の推進に向けた協働体制の構築を進めている。

## 2. 事業の内容

### (1) 生物多様性の理解促進に向けた情報発信

- ①研修会の開催：生物多様性センターを訪れた一般府民、企業、学校、行政等に対し、生物多様性研修プログラム「知ろう・伝えようおおさかの生物多様性」等を活用した研修を行っている。
- ②常設展・企画展の運営：本館内展示スペースにおいて、大阪の自然や生物、生物多様性センターの調査結果等の最新のトピックスを紹介している。また、その時勢に応じたテーマを設定した企画展を運営している。
- ③談話会・フォーラムの開催：一般府民を対象として、生物多様性に関連したテーマを設定し、センターの職員と外部講師が話題提供者となる講習会を実施している。
- ④子ども向けイベントの開催：次世代を担う子どもたちとその保護者を対象として、楽しみながら生物多様性について学んでもらうことを目的とした「生きものふれあいイベント」や、調査体験イベントを開催している。

### (2) 取組の推進に向けた協働体制の構築

- ①おおさか生物多様性リンクの取組：生物多様性センターと企業、学校、行政等の様々な外部団体が、やわらかでしなやかな繋がり（リンク）を構築し、相互に協力し合うことで、生物多様性の保全や利活用を一層推進することを目指す取組である。現在の連携団体は9団体である。
- ②生物多様性センターサポートスタッフ制度の運営：市民の皆さまに活動の場を提供するため、生物多様性センターが実施する様々なイベントなどに御協力いただける方を対象とする市民ボランティアの登録制度を運営している。年度更新制で、年間登録者数は約60名ほどである。

## 3. 今後の方向性

既存の事業を継続・発展させると同時に、生物多様性に対する府民の理解と行動の促進に向けて、ICTを活用した市民調査手法の体制整備による情報収集など、新たな取組を進めていく。また、収集した情報を活用して、府民、企業、学校、行政など、府内の様々なステークホルダーに応じた情報提供や取組支援を一層強化していくとともに、より多様な主体との協働体制の構築を推進していく。

## 業績

- (1) 近藤美麻・山本義彦（2022）. 小学校教員の生物多様性への理解と教育の実践に向けた課題. 2022年日本ESD学会第5回大会（オンライン）, 2022年11月.